

車用防錆フィルムで存在感



牧野 渉 社長

中部地区の化学・素材系企業は自動車産業とのかかわりが深い。愛知県豊橋市のアイセロもそんな一社である。主力製品は車載向け金属部品の輸送や保管時に問題となる錆びの発生をガードする防錆フィルム「ポーセロン」(商品名)だ。部品同士が接触したりしてできる傷や、倉庫内の粉塵による汚れの付着を防ぐ役

アイセロ

割も果たし、防錆フィルムの自動車向けとしては国内のシェア9割、グローバルでも3割を保有する超メジャーな製品である。

車載部品の製造は海外シフトが加速している。同社も事業のグローバル化に取り組んでおり、中国やマレーシア、インドネシアなどに11拠点を保有。日本国内のグループ7社を合わせた従業員数は1100人にも達し、洗剤向けなどの水溶性フィルムや薬液容器を加え

た総売上高で220億円を計上する防錆フィルムのトップメーカーとして存在感を強めている。

そして培ったフィルム技術を活用した新製品開発も活発になっている。

「金属物と樹脂の貼り合わせを加圧・加熱するだけで実現できる熱可塑性フィルム。この特殊なシート状の接着剤の実用化に成功し『フィクセロン』という商品名で展示会などに出張したら予想以上の反響だ」と顔をほころばせる牧野渉社長は、「自

動車を中心に軽量化を進める業界で樹脂製品が増えているが、接着剤の臭いもなく短時間で銅鉄やアルミなどとポリプロピレンを貼り合わせることができると特徴が評価され採用に向け供給準備に入っている。将来、会社を支える主力製品に育てたいと意気込む。製造ラインの新設も検討しており、「接着強度が半端じゃない」という噂を聞きつけた自動車や電機業界の関係者から問い合わせが相次いでいるようだ。

特殊シート接着剤にも応用